

出張報告

報告日 2026年2月6日

会派名	柏盛クラブ
報告者氏名	三宮 直人
種別	<input type="checkbox"/> 調査研究 (<input type="checkbox"/> 行政視察) <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用務	研修参加
日時	令和8年1月22日(木) 13時00分～17時00分
場所 (会場)	オンライン受講 ・申し込んでいた研修が中止となり本研修に変更。大雪のためオンライン受講とした。
調査項目等	インフラ老朽化の課題 ・インフラ崩壊寸前、その時あなたの街は守れるか
概要	<p>① 起きていること</p> <ul style="list-style-type: none">・50年以上経過するインフラの割合は加速度的に高くなる。笹子トンネル崩落、京都市水道管破裂、八潮市下水道管破裂。事故が頻繁に。・どの自治体でも有形固定資産の減価償却率が向上、老朽化が着実に進む。・その影響は、生活や公共サービス、生産性の低下と物流の遅れ、企業競争力の低下に繋がる。・インフラ老朽化は進み機能不全は着実にやってくる。事故は偶然ではなく必然。 <p>② 予算が無い！限られた財源でインフラを維持する方法</p> <ul style="list-style-type: none">・2000年代に入り充当可能な新設費が減少、2010年ころから頭打ち。2010年頃から維持管理と更新費が増加。2040年代には新設費は充当不可能。・人口は減少する+施設は老朽化する、最適な配置にしたいがお金は無い。公共施設等総合管理計画は交付金確保のための「あればよい計画」ではない。縮小や廃止する施設を決める計画。・廃止や縮小と合わせ、資産として活用し固定資産税や雇用を生み出す。・公共施設は民間にとっては良い場所が多い。土地が余ったら民間に売り財源とし民間は経済に使う。

	<p>③ 公共施設等適正管理推進事業債</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目的はコンパクトシティーにするため。集約化・複合化、長寿命化、転用、立地適正化、ユニバーサルデザイン、除却に対して交付税処置をするので国が起債を認める制度。 ・ 除却費用についても条件付きで認めている。 <p>④ 提案力を鍛える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共施設と財政計画および実行は？ ・ 整備更新の優先順位づけの根拠は？ ・ 広域化の検討は？ ・ 民間との連携は？ ・ 機能の共有と多用途化は？ ・ 財政負担と将来負担は？ ・ 市民への説明責任は？ <p>⑤ インフラ再生に成功する共通点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 何を止めたか（廃止と除却） ・ 何を残したか（機能） ・ 財政的に何が軽くなったのか
所感等	<p>令和4年度改訂の「柏崎市公共施設等総合管理計画」をみると、第3章「主な施設類型ごとの管理に関する基本的な方針」の中で施設類型ごとの基本方針と中期目標が掲げられている。令和8年度に計画されている事業もある。今回学んだ「何を止めたか（廃止と除却）、何を残したか（機能）、財政的に何が軽くなったのか」の視点で進捗状況と令和8（2026）予算での検討状況を確認していきたい。大変、有意義な研修であった。</p>

出張報告

報告日 2026年1月27日

会派名	柏盛クラブ
報告者氏名	三宮 直人
種別	<input type="checkbox"/> 調査研究 (<input type="checkbox"/> 行政視察) <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用務	研修参加
日時	令和8年1月23日(金) 13時00分～17時00分
場所 (会場)	オンライン受講 ・大雪のため急遽オンライン受講に切り替えた
調査項目等	町内会・自治会のピンチ 1. ピンチにどう向き合えばいいだろうか 2. 地域ぐるみでつながりを再構築するエリアプラットフォーム戦略
概要	1. ピンチにどう向き合えばいいだろうか 【町内会・自治会で起きていること】 ・会員率の減、役員の成りて不足と負担のしわ寄せ。 ・そして休会／解散へ。2016～2022の7年間で144団体が解散。 ・困らない、接点がない、煩わしい、プライバシーを守りたい。 ・初めてイベントに参加したが帰った。繋がりたいが繋がれない。 ・「会員でないとごみ集積所を使わせない」が訴訟問題に など <まとめ> ・負担大、入らないことのデメリット、声の大きい人の考えが通る ・意思決定と会計の不透明性、運営効率の悪さ (デジタル化の遅れ) ・行政等からの依頼の多さ などが課題 【そもそも論 町内会って何のためにあり、何のために取組むのか?】 ・長い時間をかけ話し合い、互いを理解した組織 (地縁型組織) ・住人が代わっても会員が減少しても災害時の助け合い、高齢者の見守り、地域の安全安心のために必要。 ・散乱していたごみが片付けられていたら「だれか掃除した人がいるんだ」と思いをはせてもらえれば自分事になる、これが地域力 (現実には役員に文句)。 【町内会のアップデート まずは現状の見える化】

- ・町内会の見える化20の質問シートの活用。
- ・デジタルへの移行の目的を明確にする。
- ・デジタルの活用。まずは情報共有（公式Lineでの配布）
高齢者のスマホ教室は盛況、子供や孫とのコミュニケーションツール。
- ・入りたくなる町内会にすることが目指す姿。

<まとめ>

- ・町内会の活動の原点と目的の共有
- ・町内会活動の参加者の姿と変化を確かめる
- ・しなければいけない活動から「したい活動」に転換する
- ・負担は属人化から脱却し「継続できる運営」にする
- ・会計の透明性
- ・伝わるコミュニケーション、繋がりたい人に繋がる工夫。

2. エリアプラットフォーム戦略

【地域コミュニティをつくる】

- ・地域のコミュニティは長い時間をかけて培われた「人と人との関係」
- ・これからも本質は変わらないが社会やライフスタイルの変化から長い時間をかけた関係構築は難しい。
- ・人と人は共有できるものがあって初めて繋がる。
- ・移住者との関係が無いままに町内会に入れるのは難しい。
- ・つながりの7段階。共にいる→情報共有→話を聴く→小さい体験→繰り返す→受容される→任される
- ・各段階を通じて「しなやかにつながる」

【縦割りではなく地域全体で動ける「エリアプラットフォーム」】

- ・分野を超えて出会い、繋がり、継続的に関わる基盤＝プラットフォーム
- ・地域全体を見たデザインが必要
- ・参加だけ、好きな活動だけでもOK。継続し地域を一緒につくる人になる

【地域ビジョンづくりのポイント】

- ・課題解決の思考（マイナスをゼロに）ではなく、こんな未来を実現したい思考（プラスを生む）
- ・分野、立場、世代など多様な人の声を集める
- ・開かれた場として開催する
- ・難しい言葉を並べる「役所の計画」のためのものではなく、住民がワクワクするか、自分事になるか

【この街が好きだという人を増やす、街を好きになる3段階とは】

- ・知る、発見する＝ストーリーを共有する

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関わる、馴染む＝自分も一員と思える ・ 出番がある、役に立つ＝自分は必要とされている
<p>所 感 等</p>	<p>町内会いわゆる地縁型組織のあり方については、平成 29 年 9 月会議で「行政と地縁型組織の協働のあり方」として一般質問している。最初の質問は、「当市の行政にとって、現状の地縁型組織はどのような存在なのか」。市長答弁は「一言で申し上げれば（中略）、基礎自治体の基礎となるのは、やはり町内会だろうと。（中略）よきパートナーとして連携して取り組んでいく存在であるというふうに認識しておるところでございます」との答弁だった。</p> <p>基礎自治体の基礎である町内会が、少子高齢化・女性や高齢者の就業率の高まり・社会やライフスタイルの変化等により町内会への加盟率の低下や担い手の減少等でその運営、存続がピンチの厳しい状況について具体的に解説いただいた。柏崎市においても同様の状況と思う。</p> <p>研修の中で新たに移住してきた方々に対して、町内会の役員は「繋がってもらいたいけど、繋がってもらえない」、一方で移住者は「繋がりたいと思って町内のイベント会場にきたが入りにくく帰った。繋がれなかった。せめて受付があれば」という事例があった。また先般、新潟産業大学と新潟工科大学との意見交換会で「市内の活動に興味があるが、どこでどんな活動があるのかわからない」という旨の意見があり、地域に参加したいという若い方がいることを嬉しく思った。また一昨日、小中学校との懇談の中で「地元の歴史を学ぶ機会を作ったが子どもたちは予想以上に好意的な反応を示した」旨のお話があった。小中学生という少年少女期の世代にも「今住んでいる地域、地区、町内の DNA が生きている」と確認できたと考えている。</p> <p>今回学んだ、「縦割りではなく地域全体で動ける「エリアプラットフォーム」の構築はハードルが高い。今住んでいる地域、地区、町内を更に知ることから始めてみたい。気づきの多い研修だった。</p>